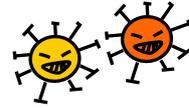


感染症に気をつけよう!

2017年【11月号】



横浜市内の感染症 流行状況



感染症	流行状況		説明 <small>【解説付き既刊号】</small> ← <small>クリック</small>
腸管出血性 大腸菌感染症	★ 多発	→ やや減少	報告が継続して出ています。例年、気温が高い初夏から初秋が、多発する時期です。【'17.9号】
手足口病	★ 警報	↘ 減少	8月上旬以降、少しずつ減少してきましたが、まだ、 <u>流行警報は解除されていません</u> 。【'17.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 予防の基本は、正しい手洗いの習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、マスクを着けて、咳エチケットを守り早目に受診してください。

- 咳やくしゃみをすると、口や鼻から細かいしぶき（飛沫：ひまつ）が飛び散ります。
- 患者の飛沫にはインフルエンザウイルスが含まれているので、マスクをしないで咳やくしゃみをすると、飛沫が飛んで周囲に感染を広げてしまいます。



- マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てて、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時は、すぐに手を洗いましょう。



- 熱が下がってからも、数日間は人にうつす可能性があります。
- 学校等については、【症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと】とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

